

別府大学と司書講習・司書補講習

別府大学長 西 村 明

別府大学に赴任してやっと1年が過ぎようとしていますが、驚き、しかも感動しましたことは、司書講習・司書補講習（以下、司書講習と略す）が46年にわたる長い歴史と伝統を持っていることです。しかも、開講式から閉講式までの約1ヶ月半ないしは2ヶ月の間に、受講生の雰囲気は全く異なっていることには驚かされました。開講式での挨拶のときには全国各地から集まってきた受講生は少々よそよそしく、私の挨拶を他人行儀に拝聴するという感じでした。しかしながら、閉講式には、あちらこちらに大きな輪ができ、談笑が絶え間ないし、私の挨拶も自然と他人行儀で無くなり、学習を終えた友人を励ますような気持ちになっていました。長い間大学で生活をしてきましたが、このような活気のある、明るい閉講式や卒業式を見たことはありません。これほど長い年月にわたって司書講習が続いてきた背景にはこの活気と談笑を生み出している別府大学の持ち味があるように思います。

別府大学は「真理はわれらを自由にする」という建学の精神を掲げています。大学としてあたりまえの精神であるかもしれませんが、私がこれまで勤務してきた幾つかの大学では「真理」という言葉さえ議論することがなくなっていることに悲しくなったことがありました。だから、残念ながら自由ではありませんでした。真理を追究するには私たちは謙虚で、まじめでなくてはならないし、そのことを基礎に徹底的に学問に打ち込まなければなりません。言葉で言うことは簡単ですが、「真理」はそんなに容易に取得できるものではありません。私もいまだ分かりません。しかし、自由になるために、死ぬまで「真理」を追い求める、これが大学人の姿ではないでしょうか。このような精神を建学の精神とする学園で働いていることに私は誇りをもっています。

佐藤允昭教授を始め、司書講習を運営している先生方は、このような建学の精神のもとで長年本学に勤務されてきており、その精神を十分に身に付けておられます。それゆえに、司書講習では自然と温かみが受講生に伝わってきます。別府大学はまた地域に密接に結びついています。先生方の地域との日常的な関係がこの司書講習に存分に活かされているのです。夏の暑い日ですが、鉄輪温泉の旅館の人びとは家族ぐるみで受講生をもてなしてくれます。格別に安い宿泊代にもかかわらず、大分の新鮮な魚と野菜が食卓に上がり、勉強で疲れた体を日本一の湯量をもつ温泉が癒してくれます。まさに別府大学の司書講習は先生方のもてなしと、地域の温かさ・自然の豊かさに支えられ、長い間続いてきたのです。

また司書講習は、大学本体の教育と切り離しがたく結びついています。別府大学は文学部と食物栄養科学部から成っていますが、ここでも、徹底した少人数教育を実施し、国際化・情報化に向けて絶えず教育研究内容を改善し、地域に支えられ地域に貢献する大学になるよう努めています。紙幅の関係で大学の現況や内容について触れることはできませんが（興味ある人はホームページ：<http://www.beppu-u.ac.jp> をクリックしてください。）、「真理はわれらを自由にする」という建学の精神を文学部と食物栄養学部でも具現化するよう努めており、その成果がまた司書講習に結びついています。

別府大学は、あと1年少しで100周年を迎えます。記念すべき行事がいくつか企画されていますが、司書講習の歴史もこの100周年と同時に祝されるべき偉大なる事業だと思っています。これまでの伝統と歴史を引き継ぎ、さらに時代の要請をうけて大いに発展し、司書講習の100周年に向けて頑張っていきたいと思います。いま、私たちは、そのための基盤をしっかりと固め、さらに日本全国から愛され、期待される司書講習になるよう努力しています。